人文書・歴史書　ご担当者　様

有志舎の新刊です。2025 年 5 月下旬刊行

島崎藤村と創作の論理

―一九二〇―三〇年代の〈社会〉と「役」の思想―

栗原　悠　著

A5判・ハードカバー・320ページ　本体価格 6,800円

（目次）

序章　〈社会〉のなかで振る舞う創作者

第一部　模範的国民詩人・松尾芭蕉

第一章　子供というモチーフの創出――媒介としての津田左右吉の文学・文化史観――

第二章　中年・芭蕉の発見――太田水穂主宰『潮音』という材源（リソース）――

第三章　〈ロマン〉の退潮――寿貞言説と「新生」の試み――

第二部　描き直される女性たち

第四章　一夫一婦制への疑問――「涙」と掲載誌『解放』の論調との交差――

第五章　治される信仰 ――「ある女の生涯」と森田正馬の〈患者〉認識――

第六章　「三人」における地方の知識階級女性の苦悩――読まれざる学都・松本と女子教育――

第三部　そして〈親〉になる

第七章　恐るべき血潮――「伸び支度」における人形と月経の表象――

第八章　〈ユーモア〉の志向とその帰趨――「嵐」における演じられた松尾芭蕉――

第九章　〈親〉の経世済民――「分配」と早川三代治／ヴィルフレド・パレートとの共振――

第四部　「役」の思想とその帰結

第一〇章　新生する〈詩人〉――岩波文庫『藤村詩抄』における編集の意味――

第一一章　〈素人〉の旅行記――「山陰土産」の方法論――

第一二章　〈代表〉欠格――「夜明け前」と行政改革としての幕末-明治維新期――

終章　「役」という思想のゆくえ

〈著者紹介〉栗原 悠（くりはら　ゆたか）：国文学研究資料館准教授

～版元から～　近代化の中で〈社会〉が発見され、大衆の存在へと目が向けられるようになった 1920～30 年代。さまざまな立場の人びとが抱える「生」の困難さを、自分とは異なる何者かを演じる「役」という思想から描き出した島崎藤村の文学の帰趨をたどります。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南4－19－2 クラブハウスビル1階　　（有）有　志　舎　電話:03-5929-7350

番線印	ご注文	発行：有志舎	分野
	冊 ご担当 様	島崎藤村と創作の論理 ―一九二〇―三〇年代の〈社会〉と「役」の思想― 栗原　悠　著 A5 判・ハードカバー、320 ページ 本体価格 6,800 円 新刊　ISBN 978-4-908672-83-5　C3095	日本文学 日本史（近代） 弊社はいつでも返品を受け付けていますが、逆送のご心配がある場合は、「永滝　了解」として返品下さい。

ご注文は　（株）JRC へ　　**返品条件付注文です。**

FAX：０３－３２９４－２１７７　　電話：03-5283-2230